

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 3 報
千葉県農林水産部
平成29年6月16日

うるち品種の幼穂形成期は平年より4日早い 生育の進みに応じた適期作業を

[生育概況]

5月以降、気温は平年並みに推移しており、4月20日頃に植付したうるち品種は、平年と比較して4日程度早く生育していますが、生育量は平年並となっています。

表1 品種別の生育状況（6月14日現在）

品種	植付時期	平年比※1			
		生育進度※2 (幼穂形成期※3)	草丈	莖数	葉色
ふさおとめ	4月20日頃	やや早(6月12日)	並	並	並
ふさこがね	4月20日頃	やや早(6月13日)	並	並	並
コシヒカリ	4月20日頃	やや早	並	並	並
	5月1日頃	やや早	並	並	並
ふさのもち	4月20日頃	並	やや短	やや多	並
	5月10日頃	並	やや短	やや多	並

※1 平年比は過去10か年（2007～2016年）の平均値との比較

ただし、ふさのもちは過去7か年（2010～2016年）の平均値との比較

※2 幼穂形成期の実績値および予測値により判断

※3 幼穂形成期は、農林総合研究センター（千葉市）のほ場

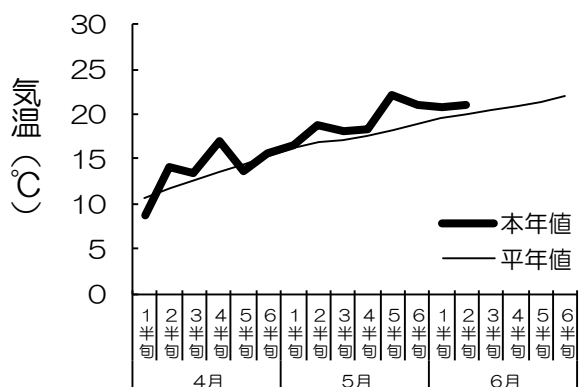


図1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

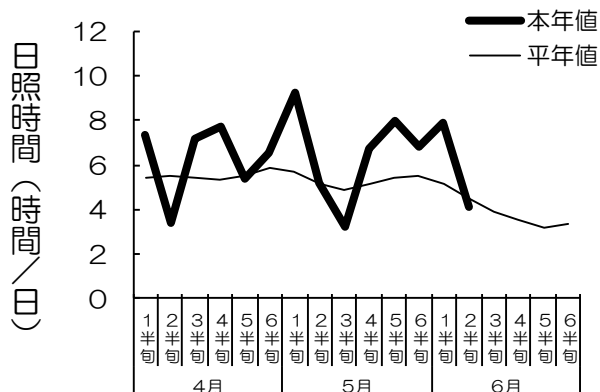


図2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

[これからの管理のポイント]

■生育の進みに応じた適期作業の実施

「ふさおとめ」「ふさこがね」の幼穂形成期は平年と比較して4日程度早く、今後「コシヒカリ」も4日程度早くなる見込みです。穂肥等は、水稻の生育を確認しながら適期に行いましょう。

■穂肥の実施

穂肥の施用時期が早いと倒伏や籾数過剰による登熟不良や玄米外観品質低下を招くおそれがあります。品種別・地域別の幼穂形成期及び穂肥施用適期の目安（表2）を参考に、幼穂長を確認し適期に穂肥を実施しましょう。

表2 品種別・地域別の幼穂形成期予測及び穂肥施用適期の目安

品種	植付時期	幼穂形成期予測				穂肥施用適期の目安
		県北 (香取市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)	
ふさおとめ	4月20日	6月19日	6月12日	6月12日	6月13日	幼穂形成期から1週間以内 【幼穂長 1mm~1cm】
ふさこがね	4月20日	6月21日	6月15日	6月13日	6月15日	幼穂形成期から7日後頃 【幼穂長 1cm】
コシヒカリ	4月20日	6月23日	6月20日	6月21日	6月21日	幼穂形成期7日後頃~ 15日後頃の間 【幼穂長 1cm~8cm】
	5月1日	6月29日	6月26日	6月26日	6月26日	
飼料用米 (アキヒカリ)	5月15日 頃	6月24日頃				幼穂形成期前5日頃から 幼穂形成期後5日頃 (ただし、最高分げつ期に葉 色が低下した場合は、すぐに 追肥)
飼料用米 (夢あおば)	5月15日 頃	6月30日頃				

※幼穂形成期は、4月20日植付の「ふさおとめ」「ふさこがね」は水稻作柄安定対策調査結果の実測値から。その他は、H28千葉県試験研究成果普及情報を基に予測。ただし、飼料用米は、水稻作柄安定対策調査結果等を参考に予測。

各品種の10a当たりの施肥量は、窒素と加里を成分量で各3kg(房総南部の粘質土では、窒素成分を「ふさおとめ」は1~2kg、「ふさこがね」は2~3kg、「コシヒカリ」は2kg)です。

幼穂形成期の目標生育量(表3)を参考に、生育量が旺盛の場合は2割程度減肥しましょう。なお、「飼料用米多収品種(専用品種)」は、窒素を単肥で3kgです。

表3 幼穂形成期の目標生育量

品種	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)			葉色 (カラー スケール値)
		砂質土	壤質土	粘質土	
ふさおとめ	55 以下	570~620 (31~34 本)		520~570 (29~31 本)	4.0
ふさこがね	60~65 以下	450~500(25~27 本/株)			5.0
コシヒカリ	70 以下	430~560(23~30 本/株)			3.5~4.0

※茎数の () 内は 30cm×18cm で植付された時の 1 株平均茎数

■水管理

中干し後は間断かんがいを行い、その後、幼穂を確認したら入水を開始し、出穂 3 週間前から出穂 2 週間後までは湛水管理 (※) を行います。

(※) 自然由来のカドミウムの吸収を抑えるために必要な技術です。

○飼料用米の中干し

5月15日頃に植付した飼料用米の「アキヒカリ」、「夢あおば」は6月17日頃から中干し開始時期となります。

なお、飼料用米における中干しは、茎数増加に影響しない程度とし、収穫時に大型機械がスムーズにほ場に入れるようにしましょう。

○低温時には湛水 (飼料用米は特に注意)

幼穂形成期以降に日平均気温 20℃以下の低温の持続が予想されるときは、冷害防止のために深水で湛水 (保温) しましょう。

特に冷害危険期とされる幼穂形成期後 10日~15日 (出穂前 15~10日) は、湛水の深さを 20cm程度とします。

なお、低温が予想される場合でも、穂肥は施用しましょう。

飼料用米の「アキヒカリ」「初星」「夢あおば」「べこあおば」は耐冷性が弱いいため、特に注意しましょう。

表4 品種別の冷害危険期

品種	植付時期	冷害危険期予測 (千葉市) ※ (冷害危険期は、下記から5日間)
ふさおとめ	4月20日	6月22日頃から
ふさこがね	4月20日	6月23日頃から
コシヒカリ	4月20日	7月1日頃から
	5月 1日	7月6日頃から
飼料用米(アキヒカリ)	5月15日頃	7月4日頃から
飼料用米(夢あおば)	5月15日頃	7月10日頃から

※農林総合研究センター (千葉市) の実測値から予測

■病害虫防除

農薬の使用に当たっては、収穫前使用基準等の登録内容を良く確認して、適期に防除しましょう。

○ヒメトビウンカ（イネ縞葉枯病の防除）

ヒメトビウンカはイネ縞葉枯病を媒介し、生育後期（分けつ盛期以降）にイネ縞葉枯病が発病すると、生育不良や出すくみ症状、奇形穂など出穂異常となります。

前年の生育中や再生株でイネ縞葉枯病の発生があったほ場では、6月中旬頃にほ場をよく観察し、ヒメトビウンカの成虫が多発する場合は本田防除を実施しましょう。

○畦畔雑草の防除（カメムシ類の防除）

出穂直前の畦畔雑草はカメムシ類の生息場所となるので、出穂2週間前頃までに畦畔雑草を刈取ります。

表5 品種別の出穂期予測

品種	植付時期	出穂期予測
ふさおとめ	4月20日	7月9日
ふさこがね	4月20日	7月11日

※H28千葉県試験研究成果普及情報を基に予測

○飼料用米ほ場における防除

飼料用米でもカメムシ類をはじめとした病害虫防除は適切に実施しましょう。

農薬は、稲用に登録されている薬剤を使用することができますが、粳米のまま出荷する場合は出穂以降の農薬散布は行えません。ただし、安全性が確認された農薬については、出穂始め以降の散布が認められていますので、最新情報を確認してください。（（独）農林水産消費技術センター http://www.famic.go.jp/ffis/feed/tuti/21_658.html ）

黄熟期以前に早刈りし、粳米だけを利用するソフトグレインサイレージでは、出穂始め以降の農薬散布は一切行えません。

過去に掲載した内容や病害虫の発生予察情報等については、千葉県ホームページ「生育情報」を御覧ください。（ <https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html> ）

次回の「水稻の生育状況と当面の対策」は、6月28日に発行予定です。